

東京YMCA

2025

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

平和への祈り

—すべてのいのちが尊ばれる世界へ

戦後80年、私たちは何を受け継ぎ、いかに歩むか



日本基督教団
弓町本郷教会
にしおかひろよし
西岡裕芳牧師

プロフィール

にしおかひろよし
西岡裕芳

1966年高知県生まれ。仙台での学生時代にキリスト教と出会う。卒業後、2年あまりの会社勤務を経て、牧師となる志を与えられ、同志社大学大学院神学研究科に学ぶ。1997年から松山教会、月寒教会（札幌）、京都葵教会、福岡警固教会で働き、2024年4月から弓町本郷教会主任担任教師。2024年12月の東京YMCA早天祈祷会で奨励。趣味は、本屋・古本屋巡りなど。

心からの願いは平和

心に響いた東エルサレムYMCA総主事の話

東エルサレムYMCAのピーター総主事の講演会に出席し、心動かされました。7月20日の弓町本郷教会週報のコラム「真砂坂上十字の路から」（まさごさかうえじゅうじのみちから）に、「心からの思いを」と題して次のように書きました。

「7月7日、東エルサレムYMCAのピーター総主事の講演を聞いてきました。『何人』『何件』などの数字ではなく人道的観点から気持ちを込めて語りたいと前置きして、今パレスチナで起こっていることを語ってください

いました。また、この状況の中でYMCAが取り組んでいることも紹介くださいました。ことも私たち

の心のケアのためのリハビリテーションプログラムや、エキュメニカル※の心でつながる活動など、編集者注：キリスト教の教派を超えた運動）な団体と協働しているのオリブの木のカンパーン、女性育成プログラム等々です。ガザで大規模な戦闘が始まった2023年10月以降、YMCAを利用する人は増えてきているのだそうです。人々は居場所を求めているのです。また、YMCAのスタッフの多くはモスリムの方々だと言います。キリスト教精神で運営されているYMCAの働きを担うスタッフらを、ピーター総主事は誇りに思っ

た自身はなぜ遠い世界へなっています。の関心を保ち続けるのでしょうか。それがあなたの問いへの答えです。コントロールしようとするのではなく、心からの自分の思いを語り行動すること、人を動かすのはこの原点に立ち続けることだと改めて考えました。」

牧師として働き始めてから、このようなコラムを書き続けてきました。これは、一週間に一度の日記のようなものであり、生活の一部となっています。さまざまな出来事の中で気付いたことや、読書感想文らしきものを書くときもあります。わたしたちは、人の心をコントロールしようとはしません。思いを貫くために必要なのは、持続的なパッションと愛です。その人らしく、『YMCA愛』を通して取り組むほかならないのです。あな

「安心して自分らしく生きる」平和的生存権 わたしが聖書と出会い、キリスト者となったのは仙台での学生時代のことでした。政治思想史の学者である宮田光雄先生が主宰する学生聖書研究会に参加し、最後の一年間は、先生が私費で建てた一麦学寮に暮らすことをゆるぎました。寮生が大切にすべき「一麦学寮を支える二本の柱」にこうあります。

一 心をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なる神を愛し隣人を愛することを目指す。二 共同生活の中で、日本憲法の三大原則（自治、人権、平和）を日々実現することに努める。三 信仰者として生きるべきイエスの教えと、市民として尊ぶべき憲法の理念とが結びついているところがユニークです。何

キリスト教の使命 世界各地で紛争は止むことがありません。ウクライナでは戦争が続いています。ガザでは砲弾の恐怖の他、食糧や医療の不足、教育や文化の破壊など、ジェノサイドの様相を呈しています。日本では軍事化が進んでいます。昨年まで暮らした九州では、陸海機動団やオスプレイ部隊の新設、奄美から沖縄へと連なる琉球弧の島々での自衛隊基地の建設など、「南シフト」と呼ばれる軍

神の国に与り仕えることでした。神の国の内容は神の平和であり、具体的には存在の安堵を意味します。わたしなりに言い換えれば、「福音宣教」とは、「一人ひとりが神に愛されているものとして安心して自分らしく生きることを、自ら味わいながら、また人々と分かち合うこと」になります。「福音宣教」と平和的生存権とは、だれもが安心して自分らしく生きるという点で重なっています。そして、平和こそは教会の追求すべき中心的な課題なのだ、と理解したので

赤三角 かつてYMCAに関わったメンバー、リーダー、スタッフ、約40人が元目黒YMCAのOBOGの呼びかけで7月、山手セ

〈Kids Garden〉ボランティア 牧野桃子さん (Ms. Momoko)



笑い声と水しぶきが飛び交った、子どもたちとの水鉄砲対決！(右端がMs. Momoko)

まず何より、子どもたちととても楽しい時間を過ごすことができました。みんな明るくてたくさん話しかけてくれて、気づけば私が一番楽しんでいました。特に水鉄砲で遊んだことが一番印象に残っています。びしょびしょになりながらも、思いっきり笑って、とても楽しかったです。また、自分にとっても成長の機会となりました。私はあくまでボランティアでしたが、子どもたちにとっては一人の「先生」なので、気を引き締めて行動するよう心がけました。少しでも先生方のお役に立てていたら嬉しいです。

また機会があったら、ぜひボランティアとして参加したいです。ありがとうございました！

共に挑戦し、共に成長した
子どもたちとリーダーの
サマープログラム2025

2025年夏、東京YMCAでは51のサマープログラムが実施され、延べ1,300人を超える子どもたちと延べ約300人のボランティアリーダーが参加しました。子どもたちは仲間との活動を通して、互いに励まし合いながらさまざまな経験を重ね、大きく成長しました。その姿を見守り、支えたリーダーたちの声をご紹介します。 ※()内はプログラムでの呼び名

〈キッズ英語〉ボランティア 石原愛菜さん (Ms. Emma)



子どもたちの挑戦を応援し、「できた！」の瞬間をそっと見守るMs. Emma (左)

昨年、キッズ英語のサマープログラムに初めてボランティアとして参加し、多くの出会いや経験を通じて、自分の視野が大きく広がるのを実感しました。最初は緊張してなかなか話せなかった子どもが、日を過ごすうちに笑顔で話してくれるようになり、自ら新しいことに挑戦する姿に成長を感じ、その小さな成長を見守って応援できることに感謝していました。

今年は二年目として、さらに一人ひとりに寄り添い、どんなことでも安心して挑戦できる環境作りを心がけました。「教える人」ではなく「寄り添う人」として、一緒に考え、一緒に挑戦することにより、安心と信頼関係が生まれることを学びました。

来年もこの経験を生かし、子どもたちと向き合う中で、自分も成長していきたいです。

〈キャンプ〉ボランティアリーダー 岩本莉歩さん (くろおび)



この夏のキャンプでは、苦手意識のあったプログラムリーダー(以下、PL)を多く経験し、その難しさと楽しさを味わいながら、自分の変化や成長を感じました。

特にHOPキャンプ

では、幼児も理解でき、小学生も楽しめるプログラム作りの難しさや、話し方・伝え方で子どもたちの注目や引き込まれ具合が変わることに気付きました。また、PLとして前に立つからこそ見える子どもたちの表情や反応から反省や自信にもつながり、楽しそうな表情を見ると、やりがいや向上心が生まれました。さまざまな挑戦ができ、とても貴重な経験になったと思います。

この夏一番感じた気持ちは「とにかく楽しかった！」です。今回感じたことや学んだことを、冬や春、普段の定例活動にも生かしていきたいです。

〈キャンプ〉ボランティアリーダー 石井遥翔さん (ジェット)



私がキャンプを通して印象に残っているのは、子どもが自然の中での活動を心から楽しむ姿や、初めて出会った仲間と次第に関係を深めていく姿です。さらに、自分や他者を大切にしながら仲間と新しいことに挑戦する姿がありました。野尻や海など、それぞれの環境で得た経験や芽生えた感情は、子どもにとって確かな成長の糧になると感じます。

一方で、私自身もリーダーとして、安全意識や主体的に行動すること、また仲間と協力することの大切さを学びました。子どもたちはもちろん、リーダーも含めたキャンパー全員が成長できる場として、100年以上の歴史を持つYMCAキャンプの素晴らしい姿を改めて実感しました。今後さまざまな形でキャンプに携わっていきたいと強く思っています。

駐在の働きに魅せられて職員へ！

野外教育・ユース 伊藤 啓さん



大学のキャンプで利用したことをきっかけに野尻キャンプが大好きになり、駐在リーダーを経て、今年度から職員として野尻キャンプの活動に携わっています。

私にとって、野尻駐在の魅力は「自然の中で生きる」「誰かのために働く」「自分も成長する」の3点に集約されます。特に、野尻湖の涼しい風に吹かれてヨットを操船することの面白さは、都会の日常生活では味わうことのできない経験の一つです。都会の日常から離れ、自然の中で体を動かして楽しむ中にごそ、人が成長することのできる「余白」が残されていると感じます。

この野尻キャンプは、数多くのボランティアリーダーやスタッフの奉仕と献身によって支えられています。その中でも駐在リーダー(ボランティアリーダー)は、多くの場面でキャンパーを支える役割が求められます。大変ではありますが、それはかけがえのない喜びに満ちています。それぞれの能力やスキルを超えて、互いに協力し、支え合いながら活動することが何よりも大切であり、そのような仲間の存在はかけがえのない宝であり、財産です。

野外教育とその実践の中心として、今後も野尻キャンプでの豊かな経験を次の世代へと繋げていきたいと願っています。

「野尻キャンプ」って？

東京YMCA野尻キャンプは、長野県信濃町野尻湖畔にある青少年教育のためのキャンプ場です。キャンパーが生活するキャンピングには電気がなく、ランプの灯りで生活し、水辺ではヨット・カヌー・サップなどの豊富なウォーターアクティビティを楽しむことができます。毎年、東京YMCAのキャンプや専門学校だけでなく、大学生や障がいのある青少年のグループなど、さまざまな方々が訪れ、かけがえのない経験をしています。

「駐在リーダー」って？

野尻キャンプには「駐在リーダー」と呼ばれる存在があります。多くは大学生ですが、キャンプリーダーや駐在リーダーのOBOGである社会人も活動しており、今シーズンは学生と社会人合わせて30人以上が入れ替わりで駐在リーダーをつとめました。

キャンプを裏方として支えるのが駐在リーダーで、その活動は、キャンピングの清掃や布団準備といった受け入れの準備から、ヨットやアーチェリーなどのアクティビティ指導、さらにはランプのメンテナンスやキャンプ場内の階段補修まで、多岐にわたります。さまざまな年代の駐在リーダーが寝食を共にして共同生活を送りながら、お互いに駐在業務を教え合い、時には悩み、時には笑い合い、活動に励んでいます。

キャンプはキャンパーが仲間とともに作り上げるものですが、その活動を支えているのが駐在リーダーです。彼らの活動があるからこそ、キャンパー一人ひとりが豊かな自然の中での活動を楽しみ、都会では得難い体験をすることができるのです。(野外教育・ユース 本多良章)



野尻キャンプの縁の下の方たち、「駐在リーダー」を知っていますか？

駐在リーダーの魅力、教えます！

宮脇由依さん (ちゃお) ※()内はキャンプネーム

駐在を始めたのは大学1年生の時、先輩リーダーに誘われたことがきっかけでした。最初の年は何もかもが初めての環境の中、自分の無力さに不安でいっぱいになったこともありましたが。そんな時、仲間から「自信がなくても、失敗してもいいからやってみよう」という言葉をかけてもらったことが今も心に残っています。うまくいかないことを恐れて挑戦を避けるのではなく、まず踏み出す大切さ、そしてどうしたらより良いものになるか考え続ける姿勢を、駐在としての日々を通して学びました。

私たちの仕事は、キャンプのサポートや施設の管理が中心ですが、与えられた作業をただこなすのではなく、仲間たちと協力し工夫を重ねる中で、キャンプが良くなるよう努めます。そしてその中には無数の成長のチャンスがあり、それこそが駐在という役割の魅力だと感じています。

気付けば3年が経ち、私は今年も野尻湖に来ています。相変わらず知らないことだらけですが、仲間やキャンパーとの関わりの中で、新たなことに挑戦する楽しさを強く実感しています。常に成長のチャンスが与えられていることに感謝しながら、これからもこの場所が若者の挑戦の場であり続けることを願っています。



飯塚 彩さん (くー)

90年以上続く野尻キャンプには、歴代のリーダーが積み重ねてきた歴史があります。過去の日誌や駐在部屋、メインホールに残る色紙の数々を見て、長年続いてきたこの場所での歩みを実感しました。

今回の駐在中、雨で流れてしまった階段を作り直しました。斜面を掘り、木材を打ち込む作業は体力も必要で大変でした。今回直した段以外は、数年前に他のリーダーが作ったものです。「壊れたら直す」を繰り返して守られてきたこの場所の歴史に、自分も関わることが素直に嬉しく思えました。

駐在中は、毎日新しい出会いがありました。来荘や離荘で仲間が入れ替わり、初めて会うリーダーとも協力して活動します。こうした環境で過ごす時間は、普段の生活では得られない貴重な経験になりました。



使い終わったランプのメンテナンス



力を合わせて船の片付け

キャンパーが乗る前にボートの清掃



年齢も経験もさまざまな駐在リーダー。明るさとチームワークでキャンプを陰から盛り上げる

大人になると新しいことに飛び込むのが少し怖くなることもあります。しかし今回の駐在中、挑戦することの大切さを改めて感じました。YMCAの縦にも横にも広がる大きなつながりの中で、一緒に活動する仲間や支えてくださる方々に感謝しながら、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。

「できた!!」を育てるYMCAスキーキャンプ

YMCAでは毎冬、幼児から中高生を対象とした2泊3日から4泊5日のスキーキャンプを実施しています。

YMCAスキーキャンプの魅力は大きく3つあります。一つ目は、他のスポーツと比べて上達を体感しやすいスキーを単なる技術の習得と捉えず、子どもたちの成長を引き出す「機会」と考えている点です。初心者は、初めはスキーを履いた状態で雪上に立つことすらおぼつきません。しかし、半日でごく緩い斜面を、二日目には緩斜面

をスピードに乗って滑走することが可能になります。その変化を通じて「やればできる!」という感覚が養われ、これが子どもたちの自尊感情を育てていきます。

二つ目は、特定の技術や特定の条件下での滑走技術など、特定の「型」を身に付けることを目的とせず、刻々と変化する状況における適切な判断・対応能力を養う点です。天候や多様な雪質に適応できる滑走技術や、短距離・長距離・緩斜面・急斜面・不整地といった多様な斜面の滑走方法の習得は個人の感覚によるところが大きいため、滑り方を学ぶというよりは、自らが体験することによって身に付けることを大切にしています。急速に変化する現代社会において柔軟性や適応力、創造性が必要と言われますが、スキー指導においてそういった能力の育成につながると考えています。

三つ目は、技術習得のみを目的とせず、子どもたちの「できた!」「やってみたい」という気持ちを大切にするため、キャンプで子どもたちと生活を共にしているボランティアリーダーがスキーレッスンの指導も担う点です。これが

最大の魅力であると思います。一人ひとりの性格やキャンプにおける状況等を把握しているキャンプリーダーが指導にあたることで、気持ちに寄り添った指導が可能になるのです。

今シーズンも、YMCAスキーキャンプを通して多くの子どもたちがスキーの魅力を感じ、スキーを楽しみ、人として大切にすべき価値に触れる機会となることを願っています。

(野外教育・ユース MD 鳩山徹郎)



スキーキャンプ
11/6申込開始
(4面参照)



スキーキャンプの
詳細はこちら
(フォトギャラリーあり)

誰が想像したでしょう。お米の価格は去年の倍になり、店頭からも消え、まさに「米騒動」が今年起こるとは。米の作況などあまり気にしない私たちも、今年はそれを気にしながら秋を過ごしています。困らないと、そのありがたみを忘れてしまうのが私たち人間なのでしょう。お米一粒のありがたさを今まで以上に感じています。

するたびに、落穂拾いの稲穂かな!こんな格言が大変さとなわに実った恵みを手にもおごり高ぶらないことを称える意味ですが、頭を垂れることは、ただ高ぶらないが、人々は口をそろえて

稲穂

るYMCA創設者ジョージ・ウィリアムズの生き方に重なります。彼は英王室から「ナイト」の称号を授与され、最高の栄誉を手にした人物でした。

10月は彼の生誕月。改めて、YMCAの原点に思いを馳せるとともに、実りの秋・収穫の秋にあたり、与えられる日々の恵みに気づき、小さなことにも謙虚に感謝して過ごす季節にしたいと思っています。

以前、田んぼで落穂拾いをした経験がありまして。数人で一日かけて田んぼをまわり、一俵(約60kg)ほどの稲穂を集めました。ニュースを目に

豪雨、後継者不足が不安材料とのこと。やはりお米一粒への感謝を忘れてはいけないと思うされも、高ぶることなく日々の恵みに感謝し続ける姿勢は、私たちのルーツである。

感謝を表すことでもあるのではないのでしょうか。大きな実りを手にして、高ぶることなく日々の恵みに感謝し続ける姿勢は、私たちのルーツである。

「とても謙虚な人」と言います。しかも彼自身が最大の寄付者でありながら、「受ける栄誉は自身ではなくYMCAへ向けられるべきだ」と語りました。そしてYMCAを創ったのは神様だと言い、感謝の祈りを日々さげていたのです。



野の花、空の鳥

東京YMCA総主事

星野 太郎



身近なことから ～YMCA×SDGs～

東京YMCAは、2030年とその先の未来を見据え、独自の中期計画「TOKYO YMCA VISION 150」を推進しています。この計画はSDGsの17の目標ともつながるものです。

その中でも、環境分野では、「TOKYO YMCA VISION 150」の五つの行動指針の一つである「子どもの未来のために環境を守ります」を具体化し、10の施設で再生可能エネルギー（以下、再エネ）へ切り替えました。再エネ事業を手がける「みんな電力」(株式会社UPDATER)の協力のもと、化石燃料の使用を抑え、気候変動の抑制への貢献を目指します。次世代により良い地球を引き継ぐため、持続可能な社会の実現に向けた新たな一歩を踏み出しています。



電気を「選ぶ」ことで未来をつくる 再生可能エネルギーへの切り替えを推進

学びの場で「選ぶ力」を育む

東京YMCA国際ホテル専門学校では、「みんな電力」のスタッフを招き、エネルギーと社会をテーマにした特別講義が行われました。学生たちは、世界中の気候変動からホテル業界のサステナビリティ動向に至るまで、幅広い視点で再エネの意義を学びました。

講義では、「誰が」「どんな思いで」電気を届けているのかという「生産者」にも焦点が当てられました。「電気をただ「買う」のではなく、「選ぶ、ことができる」という視点は、学生たちにとって新鮮な気づきとなったようです。また、生産地の環境や地域の課題を知ること、再エネが持つ社会的な価値への理解も深まりました。

発電所総選挙で「未来を選ぶ」体験を

講義の後半では、校舎のある山手コミュニティセンターで使用する電力の供給元を選ぶ「発電所総選挙」が行われました。学生たちは、発電方法の違いや背景にある課題を学びながら、意見を交わしました。



グループごとに電力の供給元について話し合い、候補を選定

「フードロスが電気に生まれ変わること」に希望を感じた。「美しい自然を守りながらエネルギーを得られるのが理想的」「震災からの復興に寄り添いたい」といった声が聞かれ、エネルギー選択を通じて、自分たちの生き方や社会との関わりを見つめ直す貴重な機会となりました。

若者の学びと感性が未来を照らす

今回の学びを通じ、単なる環境配慮の枠を超え、「社会の仕組み」「倫理的な選択」「将来への責任」といった広い視野からエネルギーのあり方を考える姿勢が学生たちに生まれました。

東京YMCAは、この再エネ理解の取り組みを今後さらに拡大し、他の専門学校や保育施設にも広げていく計画です。

『地球の未来を思い、いま私たちにできることを』——多くの人が

環境問題に触れ、未来の社会づくりを主体的に考える場を増やすことで、より豊かな地域社会の実現を目指します。

(広報室)



全体での「発電所総選挙」により、購入する3つの発電所を決定

<学生が選んだ供給元>

- 伊賀バイオガスパワープラント(株式会社大栄工業/三重県)
フードロスの課題解決にもつながる食品廃棄物を再利用して発電する発電所。
- 奈良井川第二水力発電所(株式会社グリーン電力エンジニアリング/長野県)
自然の景観を保ちながら、水の力で電気を生み出す発電所。
- みさき太陽光発電所1(合同会社みさき未来/福島県)
東日本大震災の復興支援につながる、福島県南相馬市の太陽光発電所。

INFORMATION

■早天祈祷会(11月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日時: 2025年11月4日(火)

7:00~8:00

奨励者: 瀧澤栄子氏

(東京 Y W C A 運営委員会 副会長)

会場: 山手センター／オンライン

問合せ: 会員部 (03-6278-9071)

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら



ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol. 31

世界につながるワイズメンズクラブ (4)



AYC参加者による大会発表

ワイズメンズクラブの国際大会は英語で行われるため、司会も登壇者も英語が基本ですが、誰もが参加できるように同時通訳も行われ、どなたでも楽しめるよう工夫されています。

熊本での第31回アジア太平洋地域大会(8月1日~3日)では、私も通訳ブースで英語から日本語への通訳を担当しました。日本の方が安心して大会に参加し、十分な成果を得られるようにお手伝いできることを毎回うれしく思っています。次回の国際大会は2026年9月10日~13日にドバイで開催されます。多くの方のご参加をお待ちしております。

このアジア太平洋地域大会と並行して、熊本YMCA阿蘇キャンプにおいて、アジア太平洋地域ユース・コンボケーション(Asia Pacific Area Youth Convocation、略してAYC)も開催されました。AYCには8ヵ国39人が参加し、「平和」をテーマにディスカッションやワークショップを行いました。国や地域を超えて青年たちが共に語り合うミーティングでは、東京YMCAユースボランティアリーダーの丸山啓太さんがリーダーとして活躍しました。詳細については、後ほどワイズメンズクラブのウェブサイトに掲載されると思いますのでご参照ください。

元アジア太平洋地域会長 利根川恵子(川越ワイズメンズクラブ)



ドバイ大会
プロモーション
ビデオ

東京YMCAメルマガ
登録募集中

東京YMCAのプログラムやボランティアなどの情報をお届けします。月1~2回の不定期配信。



登録はこちら

ウィンター・スプリング
キャンプ&スクール

YMCAキャンプは2020年に100周年を迎えました

2025ウインター・スプリングプログラム受付開始

- 水泳・語学・その他 2025年11月4日(火) 12:30
- スキー・キャンプ 2025年11月6日(木) 12:30

遊ぶ、学ぶ、そして、成長する。
YMCAにはスキー・キャンプ・英語・水泳など、多彩なプログラムがそろっています!

詳しくはホームページで



東京YMCA公式SNS

東京YMCAは、「青少年の成長」「誰もが自分らしくいられる社会となること」を願い、キャンプ・保育・国際・ウェルネスなど、さまざまな分野で活動しています。それぞれの活動やイベント情報などをSNSで発信していますので、ぜひご覧ください。

Instagram



<https://www.instagram.com/tokyoymca/>

x (旧Twitter)



https://x.com/Tokyo_YMCA

Facebook



<https://www.facebook.com/tokyoymca>

第27回愛恵エッセイ募集
~豊かな福祉社会を創るために~

東京YMCAは、公益財団法人愛恵福祉支援財団と共催し、エッセイを公募します。日常生活から得た気づきや提案をお聞かせください。どなたでも応募いただけます。

- 【テーマ】一失くしたくないものー
【締切】2025年11月14日(金)必着
【対象】学生の部、専門職の部、一般の部、外国籍の部
【表彰】最優秀賞、優秀賞、佳作(賞状と賞金を贈ります)
【応募先】東京YMCA会員部内「エッセイ募集係」
(kaiin@tokyoymca.org)



詳細はこちら



「僕たちのキャンプ~プロジェクトキャンプ編~」

中高生を対象に、キャンプの企画・運営を行うイベントです。ジュニアリーダーとなって、小学生を対象とした1泊2日のキャンプ開催にむけ、プログラムを決めて、トレーニングを行い本番のキャンプを迎えます。わくわくビレッジのスタッフやリーダーと一緒にキャンプをつくってみませんか?

- 日程 ①1月18日(日) ②1月25日(日) ③2月15日(日)
④2月22日(日) ⑤キャンプ本番3月7日(土)~8日(日)
⑥3月15日(日)
- 対象 中学生・高校生
- 定員 10名※応募者多数の場合は抽選
- 参加費 7,040円(税込)
- 申込 11月1日(土)~12月1日(月)

event@wakuwaku-village.com
まで下記の内容をご記入の上メールにてお申し込みください。
①郵便番号、②住所、③参加者氏名(ふりがな)、④年齢(学年)・⑤性別・⑥電話番号

詳しくはお電話またはフロントにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています